国交省 Ｂ７８７運航再開承認

4 月 26 日 19 時 18 分

トラブルが相次ぎ、運航停止となっているボーイング７８７型機について、国土交通省は２６日夜、全日空と日本航空に対し、システムの改修などを条件に運航の再開を認めました。
一方で国の運輸安全委員会などによる調査は続いていて、トラブルの原因は特定されていません。

ボーイング７８７型機について、アメリカのＦＡＡ＝連邦航空局は、日本時間の２５日夜、バッテリーシステムの改修などを条件に、２６日付けで運航再開を認めると発表しました。
このため国土交通省は２６日夜、全日空と日本航空に対し、ＦＡＡが求めるシステムの改修に加え、試験飛行の実施など独自の安全対策を条件に、運航の再開を認めました。
これを受けて、各社は試験飛行やパイロットの飛行訓練を行い、６月にも乗客を乗せた営業運航を再開させる見通しです。
ことし１月に相次いだトラブルでは、バッテリーが異常な高温になり、煙が出たり出火したりしたため、改修によって中の電池が過熱しないよう材質を変更したり、火がすぐに消えるよう設計を変更したりすることで、安全が確保できるとしています。
一方、日本の運輸安全委員会とアメリカのＮＴＳＢ＝国家運輸安全委員会による調査は続いていて、原因が特定されないまま、運航再開が認められる形となりました。